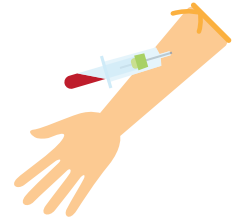




採血・静脈注射・点滴を受けられる方へ

「採血」は、基本的には安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく、また軽症なものが多いとされております。細心の注意を払って行いますが、ごくまれに次のような健康被害を生じるとの報告があります。



●止血困難・皮下血腫

採血後に血が止まりにくかったり、青あざが生じたりすることがあります。穿刺後の不十分な止血操作などが主な原因です。十分な圧迫止血をしていただきますようお願いいたします。血が止まりにくい方はお申し出ください。

●アレルギー

採血時の消毒薬やスタッフの手袋（ラテックス）などでかゆみ・発疹を初めとするアレルギー症状が出現することがあります。アレルギーをお持ちの方はお申し出ください。

●神経損傷

採血後に手指へ広がる痛み・しびれなどが生じ、一定時間が経過した後も持続します。約1万～10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいので、神経損傷を100%防止することはできませんが、通常の採血では太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で、症状は軽く一時的な場合がほとんどです。

●血管迷走神経反応

心理的に緊張・不安が強いと起こりやすいとされ、採血前に起こることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい・気分不快感・意識消失などをひきおこします。報告によりさまざまですが、0.01%～1%の頻度で起こるとされています。

参考：医療の質・安全学会「採血説明書」

これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。なお、その際の医療は通常の保険診療となります。気になる症状がありましたら、すぐにスタッフにお知らせください。